東灘区会

１２月１４日
『第 9』を唄うために“リハビリ”
音５―東　　藤井潤子

3 月に右足人工股関節置換手術をし、1 カ月経過「神戸リハビリ病院」に転院しました。

皆さん、病院へ入院する前にようく学習しないと私のような神経の細い人には耐えられない騒音でした。とうとうリハビリの途中で退院となってしまいました。いろんな音に神経がおかしくなったのだと思います。

大勢の人にお見舞いをいただき、何回も励ましに来て下さったのに誰にも言わずに退院してしまい誠に申し訳ございませんでした。よくなっての退院ではなく話の出来る状態ではなかったのです。この場を借りてお詫びします。済みませんでした。

退院したが独居老人です。幸いベッドはその日のうちに備え付けてくれました。ここで介護保険制度を利用することになるのです。実は介護 2 と認定されたのです。調査員(神戸市)とリハビリ病院のケースワーカー主治医の意見書等で決められたようです。ケースワーカーの人が、いいケア会社を紹介して下さったおかげで、ケアマネージャーはとても患者の身になって相談してくれるし、気の利いた若いヘルパーさんが 1 時間半の間に私の入浴の介添え洗濯物の取り寄せ、お掃除、お料理と短時間の間にてきぱきと仕事をこなします。段階によって使われる点数の上限があり使った点数、1 点は大体 1 円。ちなみにヘルパーさんは 1.5 時間で 308 点です。リハビリは 1 回 520 円です。皆さんもこれから何時介護保険を利用するか解りませんね。参考にしてください。

さて「介護タクシー」ってご存知かと思いますが家まで迎えに来て歌のお稽古場まで連れて行ってくれるのです。

“第９” の舞台に立って歌い終わると、一瞬静かな時が流れその後に来る大拍手「感動」で胸から熱いものがこみ上げて来ます。毎回涙を流します。

今年も泣けるように“リハビリ”だ

中央区会

神鋼グループ地域交流誌“ぽるたうん”に中央区会の活動について取り上げられ、下記のような記事で地域の人たちに配布されました。　福-７五味正昭

社会に恩返しする気持ちで
息の長い活動を

NPO 法人「社会還元センターグループ わ」は、神戸市シルバーカレッジの卒業生を中心に知識や経験を生かして社会に還元するボランティア団体として平成 9 年に設立。平成 16 年に NPO 法人となり、市内 9 区に各区会が存在します。メンバー総数は約 1,100 人。このうち中央区会は現在 39 人。最少人数の区会ながら、外部からのボランティア依頼に積極的に対応しています。

少人数でも連携・協力しながら

中央区会では、地元の介護老人福祉施設、特別養護老人ホーム、老人健康センター、障害者自立センターを中心に、継続したボランティア活動を行っています。メンバーの半数は 70 代以上で稼働人数にも変動のある中、外部との連係をうまく生かしながら展開しています。例えば、外出やイベントの付き添い、車椅子介助、書道指導とホーム喫茶の運営などは、中央区会単体で実施。「グループ わ」には区の枠を超えた 5 つの部会があり、この協力を得て、入浴後の身辺ケア活動は福祉部会と、歌唱指導やデイサービス者へのマジック公開などは文化部と連携して実施しています。

特別養護老人ホームでの夏祭り

地域活動にも精力的に参加

中央区会長の五味正昭さんは「活動範囲を広げ過ぎて中身が薄くなってはいけない。でもボランティア依頼には積極的に対応していきたい」と言います。こうした思いから継続して行うものと単発で行うものをうまく織り交ぜて活動プランを作り上げています。

昨年は中央区で開かれた「ハートでアートこうべ(障害者の文化祭)」や「ハートフルフェスタ(健康福祉フェア))などにも運営ボランティアとして参加。

また五味さんも所属している文化部会のグループのひとつ「むかし遊び研究会」を通して市内で開かれる「むかしあそびフェスティバル」に参加したり、幼稚園や小学校などを訪問。むかし遊びを通して、子どもたちの豊かな心を育てる活動にも余念がありません。

幼稚園で昔遊びを紹介

より良い方法を模索して

「活動を通じていろんなことを感じます。社会に還元できているのかな、この方法でいいのかなと模索しながら、新しい発見や学ぶことも沢山ある。それに子ども達からパワーをもらっています」と五味さん。活動人数の増加を願い、さらなるメンバーの入会も心待ちにしながら、充実した活動はこれからも続きます。